

# ろうさい ニュース

平成 28 年

1 月号

第 377 号

## ■ 新年のご挨拶 院長 有井 滋樹

新年明けましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして昨年にもまして佳い年になりますよう祈念申し上げます。

私どもも昨年以上に皆様と連携を密にして救急患者さん受け入れの充実、高度で安全で心のこもった診療、看護を行い、地域医療支援病院としての責務を果たしてまいりたいと念じています。ちなみに昨年 1 月から 11 月までに受け入れさせていただいた救急車搬送患者さんは 3286 人（1 昨年の 11 ヶ月間は 3050 人）で救急受け入れ率は 93.4%（1 昨年は 92.5%）でした。救急車搬送以外で時間外・休日で受け入れさせていただいた患者さんは 3172 人で、約 98% の受け入れ率でした。

私は団塊世代ど真ん中であり、我が国が戦後の貧しい時代—といっても終戦直後の悲惨な焼け跡闇市は知らない—から右肩上がりで GDP 世界第 2 位になる過程を体感してきました。バブルの前夜ともいえる 1979 年にはハーバード大学の教授が書いた Japan as No1 という本がベストセラーになったりもしました。当時よもや日本の人口が減少するなどと言うことは考えたこともありませんでした。

さて、すべての団塊世代が 75 歳を超える 2025 年を迎えるに際し、医療行政は病棟機能分化と連携をキーワードとして新しい地域医療構想が設計されました。私どもも地域のニーズを読み取り、それに応えていく必要があります。

高齢者に対しては治療して退院していただくだけの病院完結型から生活の場にかえていただき、かかりつけ医、あるいは介護施設などと密な連携をとり、地域で支える地域完結型の地域包括ケアシステムが掲げられています。

私どもも昨年 9 月から 1 病棟を地域包括ケア病棟としました。急性期を経て落ち着いた患者さんに積極的なリハビリなどで早期在宅復帰を促しております。これにより他の 5 病棟はより急性期らしい病棟となっています。現在の地域包括ケア病棟の在宅復帰率は約 85% で要件の 70% は満たしております。レスパイトの患者さんなども積極的に受け入れさせていただくつもりです。

本院は来年創立 50 周年を迎えます。今年はそれに向かって弾みをつけたいと願っています。本年も何卒、よろしく願い申し上げます。

## ■内分泌代謝内科のご紹介

内分泌代謝内科部長 大石 裕子

平素は大変お世話になっております。浜松労災病院内分泌代謝内科をご紹介申し上げます。  
当科は糖尿病専門医・内分泌代謝内科専門医 1 名と常勤医 1 名の 2 名体制で診療をおこなっております。また、非常勤で糖尿病専門医 1 名が担当し、外来診療は、平日毎日受け付けております。

我が国の糖尿病の現状は、先の平成 26 年厚生労働省の患者調査 (2014 年国民健康・栄養調査；厚生労働省) の概況によりますと、患者数は 316 万 6,000 人となり、2006 年の調査と比べ 46 万 6,000 人増えて、過去最高を更新しました。さらに、糖尿病が強く疑われる人の割合は、男性で 15.5%、女性で 9.8%であり、70 歳以上では男性の 4 人に 1 人、女性では 6 人に 1 人が糖尿病である、という結果です。糖尿病が原因で死亡する人数は人口 10 万人に対し、静岡県では 13.0 人と、全国平均が 11.0 人であるところを上回っています。

健診の普及により、早期に耐糖能異常の指摘が可能となっても、専門科へ受診をするに至らず、糖尿病予備軍を看過している場合もあります。診断後未治療である人の割合は、男性では 30~40 歳代が 59.4%、女性でも 30~40 歳代が 58.4%となり、男性は 50 歳以上でも 34%を越える罹病者が放置されています。高齢化社会において、高血糖による血管合併症の発症増悪は、日本全体の医療費を押し上げることにも繋がります。また、働き盛りの社会人の健康を阻害し、社会的な損失も決して小さいものとは言えないのが、糖尿病の怖いところだと思います。いかに各人の病識を向上させ、疾患に向き合ってもらおうか、医師としての使命は大きいものがあります。



糖尿病教室講義風景

当科では、毎月 2 回、外来にて糖尿病教室を開催し、医師と栄養管理士による講義を開催しております。気軽に外来患者さまや、そのご家族の参加をいただき、糖尿病にたいする意識啓発に努めております。

また、2 週間を 1 つのクールとして、医師、管理栄養士の他、運動療法士、薬剤師、糖尿病療法士資格を有する看護師、臨床検査技師が、糖尿病に関する題目を、患者さんにわかりやすく講義する形で教育入院を行っております。血糖管理はもちろん、合併症の評価も行います。

年々増え続ける糖尿病に対し、いかに合併症の発症を抑えるか、またその進行を阻止出来るか、HbA1c 6.8%以下を目指して、今後も臨床に臨んで行きたいと思っております。

これからも、浜松労災病院内分泌代謝内科をよろしくお願い申し上げます。

## ●脳神経外科 清水 寛平 (シミズ カンペイ)



初めまして。1月4日より浜松労災病院、脳神経外科に着任しました清水寛平（H22年 京都大学卒）と申します。

医師になって6年目になりますが、今までも主に救急医療を担う急性期病院を中心に勤務して参りました。浜松労災病院でも、地域の脳神経外科救急医療に貢献できるよう精一杯努めて参ります。

宜しくお願い致します。

## 第18回浜松EAST医療連携セミナー開催のお知らせ

平成28年1月27日（水）19：00よりアクトシティ浜松コンgresセンターにて、下記のとおり開催します。今回は「認知症」をテーマに大阪大学 老年・腎臓内科 医学部講師 竹谷 泰 先生をお迎えし、ご講演していただきます。

セミナー終了後、新年の意見交換会も予定しておりますので、引き続きご参加いただければ幸いです。皆様の参加をお待ちしております。

記

【日時】平成28年1月27日（水）19：00～

【会場】アクトシティ浜松 コンgresセンター 52/53/54会議室

【開会の挨拶】浜松労災病院 院長 有井 滋樹

【特別講演】

《座長》浜松労災病院 床並 房雄 神経内科部長

《演題》『生活習慣病と認知症 ～治療戦略ケア～』

《演者》大阪大学 老年・腎臓内科 医学部講師 竹谷 泰 先生

【閉会の挨拶】浜松労災病院 副院長兼地域医療連携室長 三宅 英則

※日本医師会生涯教育制度履修単位数1単位が付与されます。

共催：浜松労災病院・ノバルティスファーマ株式会社 後援：浜松市医師会（予定）



## 石綿関連疾患診断技術研修のお知らせ

下記のとおり、石綿関連疾患診断技術研修を開催いたします。受講料は無料です。

記

【日時】平成28年1月16日（土）14：00～18：00

【会場】浜松労災病院 6階大会議室 【定員】50名 ※定員になり次第締め切ります。

【講師】富山労災病院 アスベスト疾患センター長 感染症内科部長 水橋 啓一 先生

浜松労災病院 アスベスト疾患センター長 呼吸器内科部長 豊嶋 幹生 先生

【内容】「基礎研修」**専門2単位**※アスベスト関連疾患の診断と臨床について

※アスベスト関連疾患の労災補償制度について

※職場におけるアスベストばく露の形態と具体例について

「専門研修」**実施2単位**※アスベスト関連疾患の胸部画像の読影実習

【申込先】静岡産業保健総合支援センターのホームページからの申込になります。